時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり
時事新報には每號詳細なる商況物價の報告あり

時事新報

明治廿七年二月一日　木曜日
舊曆癸巳十二月廿六日(甲戌)
日出午前六時四十三分　日入午後五時七分
月出午前三時二十分　月入午後零時四十一分
滿潮午前五時二十六分　午後一時三十五分
(西曆一千八百九十四年)
年始より三十二日　年末まで三百三十三日

時事新報定價

時事新報は每號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

時事新報定價(府外遞送には此他僅に掲ぐる遞送料を要す)

一號　貳錢五厘○一箇月　前金五拾錢○三箇月　前金壹圓四拾五錢○六箇月　前金貳圓八拾五錢○一箇年　前金五圓六拾錢○月曜日休刊(此他大祭祝日年始年末等一切休刊せず)

前金●●一旦受取りたる前金は凡て通貨を以て返戻する事なく新聞紙代の前金は新聞紙を以て又廣告料の前金は廣告を以て勘定する事と御承知被下度候

時事新報遞送料

一　日本國內並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津　一箇月　金拾三錢
二　南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國　一箇月　金六拾錢
三　北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸島　一箇月　金三拾錢
四　香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲　一箇月　金六拾五錢
五　露領浦潮斯德、淸國諸港　一箇月　金三拾五錢

時事新報廣告料(前金)

一行至號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

廣告料定價●●●●時事新報の廣告料は都て定價の通り申受くる筈なれども取次人の內には往々定價以下にて引受くる者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本社廣告の取次を謝絕する事もあるべき旨に付豫め廣告依頼者諸君に公告す

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐること尠からず扨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も尠からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報社に送達したる投書の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

當座と定期

昨今金融の潮勢漸く改まらんとして利子に多少の動きを見るに至り前途、緊か緩か此處銀行者の注意す可きもの尠なからざれども成行論は姑く擱き茲に預金利子の歩合に就て一言せんに元來銀行の事務は極めて多端なりと雖も之を簡單に云へば金を貸附くると、預るとの二つにして預金には當座と定期と二樣の別ある中に當座は時限を定めず何時にても預入の随意に引出し得べく定期は其期限に滿せざれば引出す可らざるの相違ありて當座は預人に便利なれども銀行に取ては面倒多き割合に利益あるものに非ず随て之れに對する利子も二樣の間に差違あるは自然の結果にして外國銀行などにては當座に利子を附するもの殆んど皆無なりと云ふ然るに我國諸銀行の實際は事全く反對にして一般に當座を重んじて定期を輕んじ當座の利子を厚くして怪しまざるもの多きが如し素より諸銀行の利率は悉く同樣ならずして一概に云ひ難き所あれども大抵は定期と當座との間、僅かに一二歩の開きにして定期に年五分の利を附すれば當座に三歩より四歩の利を拂ひ甚だしきは特別預金など稱して殆んど定期と同樣の高利を仕拂ふものさえあり兩者の權衡甚だ不釣合なるのみならず定期には期限前に引出すものに對して一錢の利子をも拂はざるが如き苛酷の定めもあり左れば割に合はざる定期預を爲さんより便利なる當座に向ふは人情の自然にして近年當座預金の增加したること各銀行の平均を見て知る可し依頼者に取りては至極結構なれども銀行は斯る營業法を行ふて算當に合ふ可きや其不得策は云ふ迄もなく之れに伴ふて起るべき危險をも深く想像するときは轉た掛念に堪へざるものあり已に前にも陳べたる如く當座預金なるものは預人に取りてこそ便利なれども銀行は何時にても引出に應ずる準備を爲さゞる可らざるが故に常に幾分の遊金を寐せ置くの必要ありて金融上に不利のみならず一朝市場に變動を起すこともあらんか先づ取附けの衝に當るものは當座にして假かの引出しに遇ふて狼狽する例、尠なからず幸にして近年の如き無事の商況なればこそ先づ以て心配もなきことなれども商機一轉せば亦如何なる不測の變あらんも知るべからず凡そ商界の變は往々突然に來るもの多くして一旦急劇の取付けに應じ切れず不幸にして仕拂停止の厄に遇ふこともあらんか啻に一銀行の不幸に止まらず延て金融市場を亂り思ひ掛けなき恐慌を見ることもあるべし誠に危險なりと云はざるを得ず若しも銀行者にして少しく此邊に注意し目下の方針を一轉して定期預に重きを置かんには自家の利益多きと共に危險の度も尠なかるべきに此見易き理合を見ずして等しく危險なる當座の奬勵に走るものは畢竟其店頭を賑にせんとて競爭の結果識らず知らず茲に至りたるものならんなれども本來損得に鋭敏なる銀行者の事なれば靜に自他の利害を研究するときは忽ち其非を悟ることなるべし我輩は銀行者が徒らに小計策に汲々たらずして專ら安全を主とし定期と當座との間に利子の厚薄を著しくして萬一の危險を避くるの工風こそ肝要ならんと信ずるものなり今定期預金に就き或人が試みに一案を立てたるものを見るに

當座に對する利子は充分に低減し定期は及ぶ丈け歩合を高むると同時に定期預人の便利を謀る爲め例へば一ヶ年の定期預ならんには十一ヶ月目に一ヶ年分の利子を拂渡し其時に十二ヶ月の期限に至らば愈よ預金を引出すか又は引續き預け入るゝかを確め續て預け入るゝものには其場にて直ちに契約を取結ぶべし斯の如くすれば銀行は一ヶ月分の利子を損する勘定なれども其代には引出すものと繼續するものとは一ヶ月前に判然して引出さるゝ分に對し豫め準備を爲す外は預金と雖も其實は自家私有の資金に等しく自由に運轉して少しも準備を置くの必要を見ず利子一ヶ月分の損失の如きは償ふて充分の餘りあるべく預人も一ヶ月前に一年分の利子を收め得て異存あるべき筈なく一擧兩得の策なるべし云々

右の方法に從へば取扱方甚だ手輕にして双方共に利ありて害なく一案として味ふの價あるが如し素より立案者も我輩と共に其道の素人にして當局者は又夫れ〳〵の考案もあるべしと雖も兎に角に今日の預金利子は其權衡を失すること甚だしく何分にも危險なれば何とか矯正する所なかるべからず爰に一案を添へて當局者の熟考を促がすものなり

官報

○中央備荒儲蓄補助金支出

明治二十六年度中央備荒儲蓄補助金支出

一金二十五萬四十四圓六錢五厘

茨城、岐阜、鳥取、島根、岡山、和歌山、福岡、大分、佐賀ノ九縣非常ノ風水蝗災等ニ罹リ備荒儲蓄法第七條ニ據リ中央備荒儲蓄金ノ補助ヲ要シ右金額支出ノ儀上奏シテ勅裁ヲ經タリ

明治二十七年一月三十一日　大藏大臣　渡邊國武

雜報

○孟買紀行

銀行營業の概略　堀井卯之助

孟買ナショナル　バンクと云へるは恰も我日本銀行の如き組織にて兌換紙幣を發行す其種類は五ルーピー、十ルーピー、廿ルーピーより二千ルーピーに至る印刷頗る粗末にして僞造の恐れなしとせず其他有力なる銀行の數多く平均當座預金は年一分三箇月預は年三分の割にして貸出の利子は七分內外、荷爲換は六分なりと聞けり本邦紡績業者に關係ある銀行は香港上海銀行チャツター銀行、佛國銀行の三行にして爲換相場は三行の間に於て時々一ルーピー位の差ありと云ふ聞くが如くんば正金銀行は夙に支店を當地に置くの計畫ありとの事なるが日印貿易の日を追ふて盛に赴くは何人も承認する處なれば早く此計畫の成就せんこと人々の希望する所なるべし

會社及び商店の模樣

家屋の構造は頗る宏大なるに從ひ一會社にして一軒の家を有するものなく一家の中少なくとも十以上の會社あり乃ち三楷の一室は甲會社にして其隣室は乙商店と云へるが如く隨分手廣く商業を營む處の會社商店も僅に數人若くは十數人の手にて全體の事務を支配し其組織は全く我邦の實業社會と其趣を異にせり歐洲人の會社商店に勤務するものは何れも三箇年乃至五箇年の契約にて此地に來り最も清涼なる場所を擇んで住居を定め午前十時より出勤し午後五時に歸宅す左れば當地に於ける重なる商業時間は二時より四時までの間にして炎熱燒くが如きの時なりと云へり英人の俸給は同等の士人に比し三四倍に當り在勤年月を經過して歸國するに際しては皆な相當の金員を貯蓄し居ると云へり

棉花市場

余が孟買に滯航したるは十二月の中旬にして當節はと
ンガンカット、ペンゴ
熟し走荷の市場に現は
棉花市場の寂寥なる時
邊にては棉花の俵包堆
幾人なるを知らず石の
如くに積上げられ偶々
每度當地にて見聞する
行せし新聞紙によるも
したりと云へり其筋に
俵以上の積上げを禁じ
此邊あり又以て其市場

棉作人の住居

田舍の棉作人は棉の季
假小屋を造りて其內に
有の棉花を取寄せ日々
買人集會所とも云へる
處に於て取極めを爲せ
限らず此地に於ける一
へる一種の觀念を抱き
が如き風習なければ客
隨分困つたものなりと
痴を溢し居たり

棉花の包裝

孟買に集合する棉は總
て壓搾器に上せ麻布を
以て直に海外に輸送す
に輸入する棉は壓搾を
に十數箇所ありて棉花
に應じて包裝す其費用
けり

棉花の產額幷

千八百八十九年度にお
額は二百七十七萬俵
昨年度は三百三十四萬
買、進度は三割八九分
方は一割二分餘に當り
實形狀皆に我と相異な
を異にし其道に通ぜざ
記臆するを得ず量も高
ウチ等にして品質は米
も綿の內に業を混ずる
家は大に注意せざるべ

○府下第十區の形
に於て今回の選擧には
和一氏新候補者として
たるが此程同地方の重
會副議長相澤喜兵衛氏
林氏の申込を受けたる
りたるも同氏は辭退し
舞臺の模樣なるが聞く
のみとなれば今後意外の
れずと云ふ

○末吉氏の警戒
產の兩氏の競爭なるが
布赤坂及び麹町の有權
る由なるが昨今壯士體の